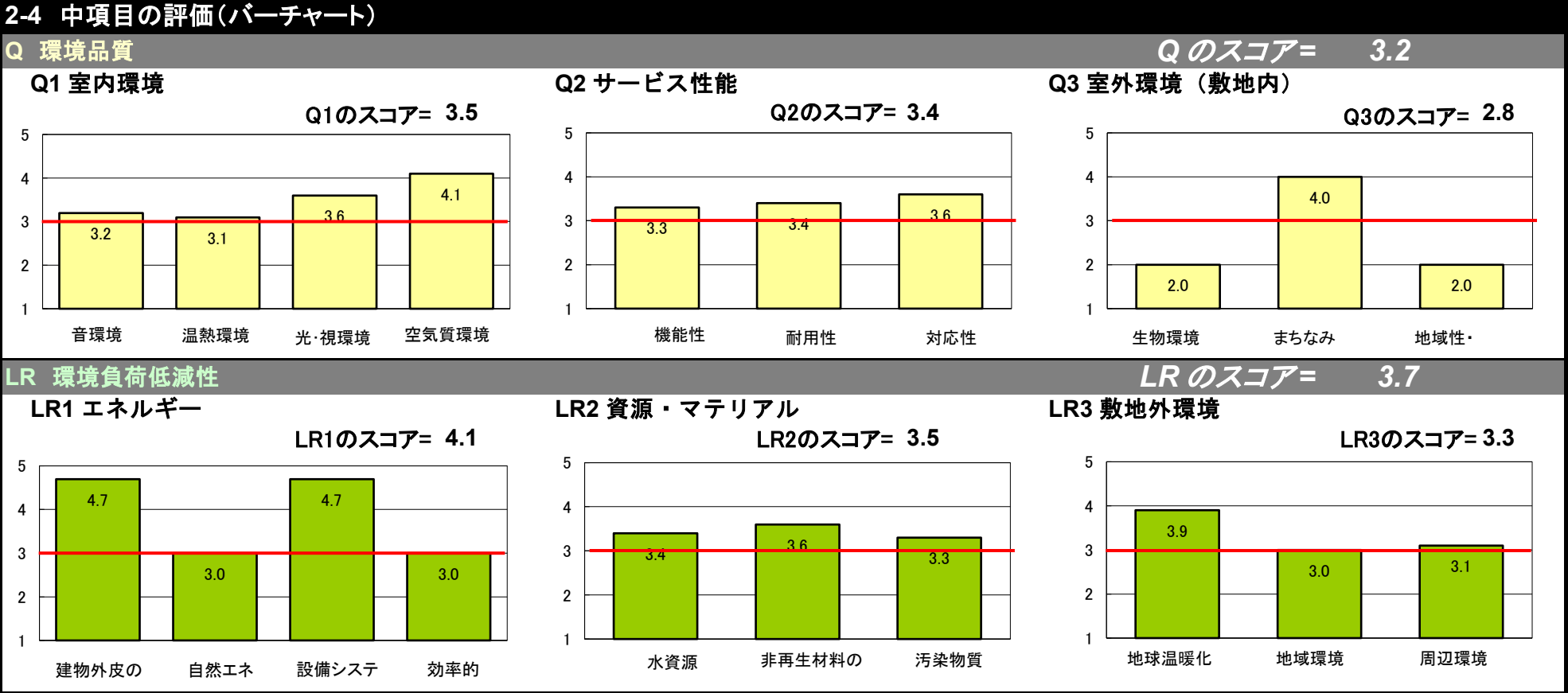
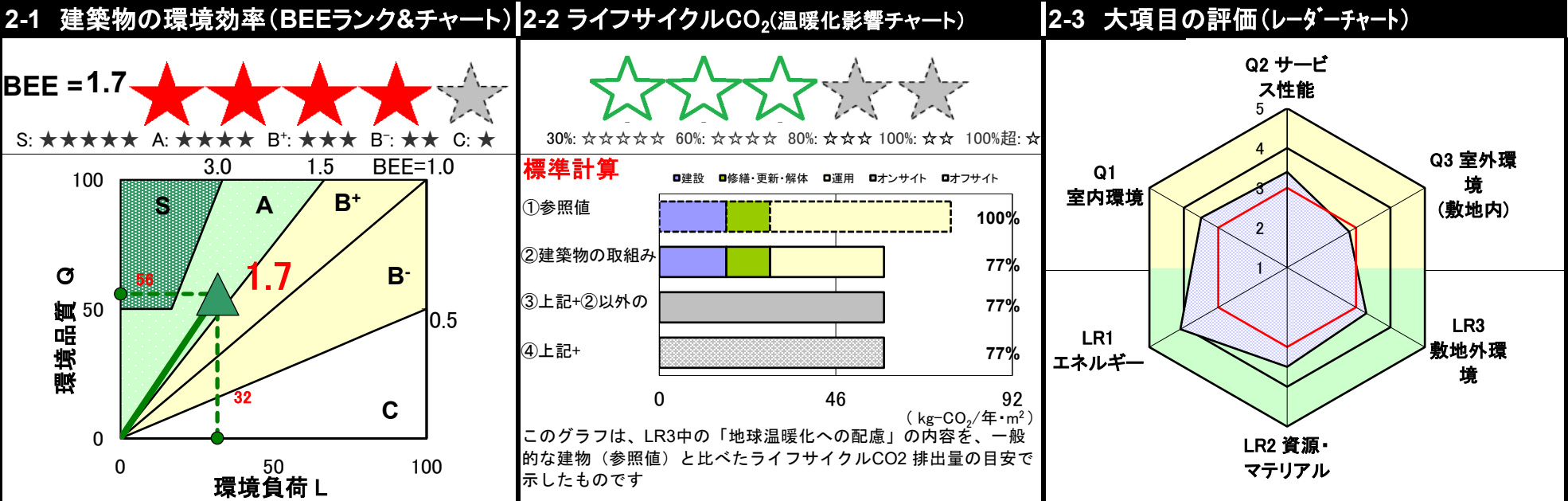


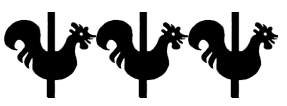
CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築（新築）2016年版 ■使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観
建物名称	JCRファーマ株式会社KSP新製剤棟	階数	地上3F
建設地	神戸市西区井吹台東町7丁目3番10	構造	S造
用途地域	準工業地域、地区計画区域(西神第2)	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年9月 予定	評価の実施日	2025年1月6日
敷地面積	27,557 m ²	作成者	吉野 博史
建築面積	5,016 m ²	確認日	
延床面積	11,947 m ²	確認者	



3 CASBEE神戸 の重要項目		
バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮
 3.0	 3.0	 4.0
	Q-2/2.4 信頼性	
	 4.0	
配慮の概要	配慮の概要 災害に備えて、非常用発電機や非停電装置を設けている。 重要な設備の耐震性はAクラスとしている。 建物内外の材料は耐用年数の高いものを採用している。	配慮の概要 敷地西南側の住宅地へ配慮し、なるべく建物を遠ざけると共に大きな庭を間に設け、多彩な植栽を施す。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
JCRファーマ株式会社KSP新製剤棟建設プロジェクト

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.2	
Q1 室内環境					0.32		-	3.5	
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40	1.0	-		
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	1.0	-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	1.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				1.0	-	1.0	-		
1.3 吸音		床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板		4.0	0.20	1.0	-		
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-	3.1	
2.1 室温制御				3.2	0.50	-	-		
1 室温				3.0	0.38	1.0	-		
2 外皮性能		外壁・窓のU値がレベル5、窓SC値がレベル3のためレベル4と評価		4.0	0.25	1.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	1.0	-		
2.3 空調方式				3.0	0.30	1.0	-		
3 光・視環境				3.6	0.25	-	-	3.6	
3.1 昼光利用				4.2	0.30	-	-		
1 昼光率		昼光率=5.7%		5.0	0.60	1.0	-		
2 方位別開口				-	-	1.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		ブラインドと庇の組み合わせ		4.0	1.00	1.0	-		
3.3 照度				3.0	0.15	1.0	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	1.0	-		
4 空気質環境				4.1	0.25	-	-	4.1	
4.1 発生源対策				4.0	0.50	-	-		
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆を採用		4.0	1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.6	0.30	-	-		
1 換気量		法定換気量の1.4倍の換気量を計画している		5.0	0.33	1.0	-		
2 自然換気性能				3.0	0.33	1.0	-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	1.0	-		
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視				-	-	-	-		
2 喫煙の制御		全館禁煙		5.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4	
1 機能性				3.3	0.40	-	-	3.3	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33	1.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	1.0	-		
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30	-	-		
1 広さ感・景観		天井高3.0m、かつ窓が設置されている		5.0	0.33	1.0	-		
2 リフレッシュスペース		カフェテリア、自販機の設置がある		5.0	0.33	-	-		
3 内装計画				1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		内壁や床に防汚性の高いものを採用している等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.4	0.30	-	-	3.4	
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		外壁仕上げの補修必要期間、35年～50年		5.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		ビニル床:20年、ビニル壁紙:20年、ボード(天井):20年		5.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		ダクトへガルバリウムやSUSを使用		4.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		上位2種以上にC以上を使用		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性				4.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		系統を小分けにしている等		5.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-		
3 電気設備		非常用発電機を備えている等		4.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		無停電装置を備えている等		5.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	最も低い階で4.1mを確保している 壁長さ比:0.126	5.0	0.60	1.0	-	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	1.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	2.0	-	
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	OAフロアの採用 OAフロアの採用	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観方針に則した外観としている等	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI = 0.83	4.7	0.20	-	-	4.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.63	4.7	0.50	-	-	4.7
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	大便器6L/回、小便器0.5L/回	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1	材料使用量の削減	その他の対策4つ	4.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材、吸音材料、屋内用品(内装材)	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	フリーアクセスフロアの採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP = 0、GWP = 1~3	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2:77%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車スペースを確保している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	LED照明を採用している等	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	